実践研究

保育事例をめぐる対話

虫を探している時間

『幼児の教育』ではこれまでさまざまな保育現場からの保育事例を紹介してきました。「事例」には子ども同士や、子ども―保育者間の実際のかかわりが描かれる面白さだけでなく、それを体験した人が記述するという固有性があります。同時に、事例は読み手にさまざまな連想や省察を誘う力をもっています。一つの事例が、立場や経験の違いによって読者それぞれの中に違う形で広がり、新しい気付きにつながるということがあるのではないでしょうか。

春号からの新コーナー「保育事例をめぐる対話」は、事例を保育者自らが紹介するだけでなく、それを別の人が、しかも多様な立場の人たちがどう読むのかも紹介するページです。園内で事例について話し合うのとも少し違う出会いや対話が生まれることを願っています。

秋号の「保育事例をめぐる対話」のテーマは、「時が重なるということ」です。

（編集委員会）